

&lt;第69回調査&gt;

2015年02月23日

**【本調査の目的】**

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

**【調査実施期間】**

2015年02月10日(火)13:00~2015年02月17日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

**【調査対象】**

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

**【調査方法】**

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。

今回の有効回答数は942件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

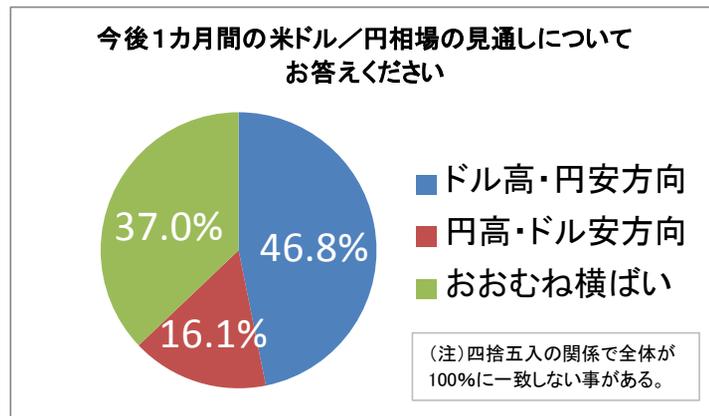
Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【第69回調査結果略報：相場見通しは三様】

## 問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

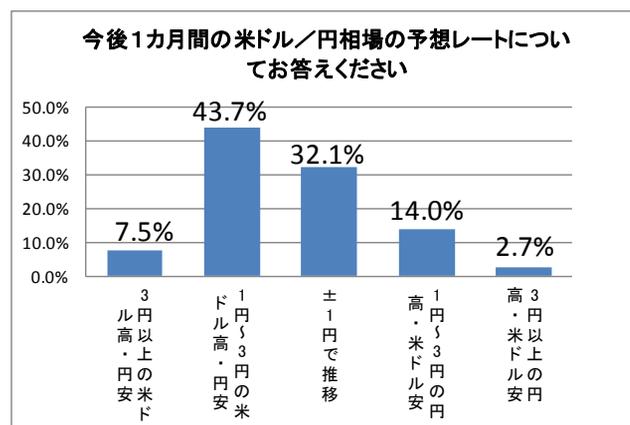
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が46.8%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は16.1%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は+30.7%ポイントとなり、3カ月ぶりにDIのプラス幅が拡大した。調査期間中の米ドル/円相場は、一時約1カ月ぶりに120円台まで上昇したが、再び118円台に押し戻されるなど方向感が定まらなかった。テクニカル面でも、120円台に上昇して三角もち合いを上放れたかに思えたが、118円台に失速して再びもち合いのレンジ内に収まった。それでもFX投資家の見通しが強気に傾いた背景には、ドルの先高期待があると見られ、問3～問5の結果などからもそうした様子が窺える。

※過去の米ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



## 問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」と答えた割合が43.7%と最も多く、「±1円で推移」が32.1%、「1円～3円の円高・米ドル安」が14.0%と続いた。「3円以上の米ドル高・円安」は7.5%、「3円以上の円高・ドル安」は2.7%に留まった。ヒストグラムの形状は米ドル高・円安側に傾いており、問1の結果に示されたドル強気・円弱気の見通しと整合的である。ただ、米ドル/円の上昇幅についてはやや控えめに見積もっている可能性が高い(大幅高への期待は小さい)と言えるだろう。



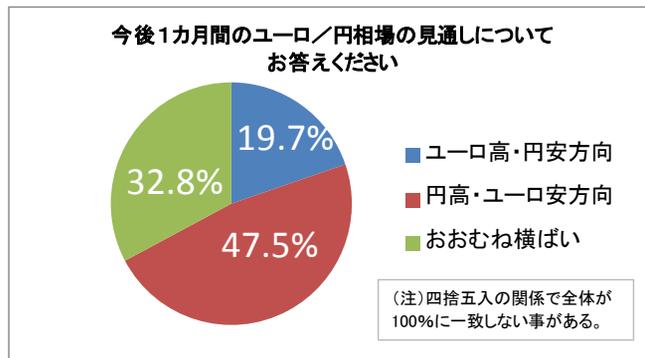
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

### 問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が19.7%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が47.5%であった。この結果、「ユーロ円予想DIは-27.8%ポイント」となり3か月連続のマイナスDIとなったが、前回の-45.5%ポイントからマイナス幅が縮小した。調査期間中のユーロ/円相場は、11日に136.675円まで上昇したが、17日にはギリシャ支援協議の混迷などから133.934円まで弱含んだ。それでも、欧州中銀(ECB)による量的緩和導入直後の1月26日に付けた130.148円を上回る水準で推移しており、FX投資家の見通しも1月ほどユーロ弱気には傾かなかったと見られる。

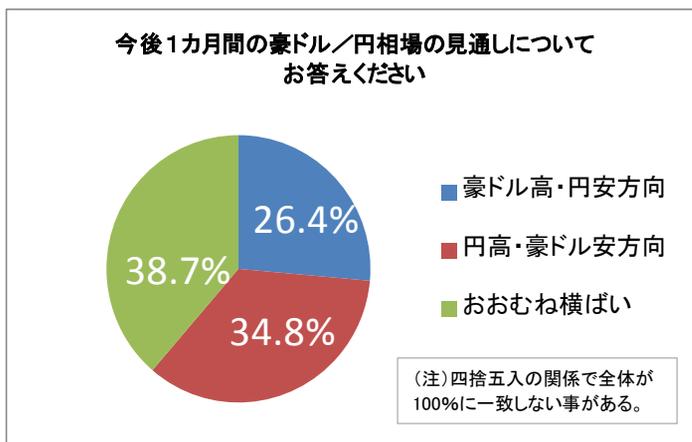
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が26.4%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は34.8%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は-8.4%ポイントと前回(-11.3%ポイント)からマイナス幅を縮小した。ただ、3か月連続でのマイナスDIは調査開始以来初めてであり、かつて隆盛を誇った豪ドル人気は、このところ衰えが目立っている。調査期間中の豪ドル/円相場は、91.283-93.101円という小幅な値動きに留まったが、連続利下げ観測がくすぶる中で上値は重かった。FX投資家の豪ドル弱気見通しも、上値の重さに繋がっているのだろう。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

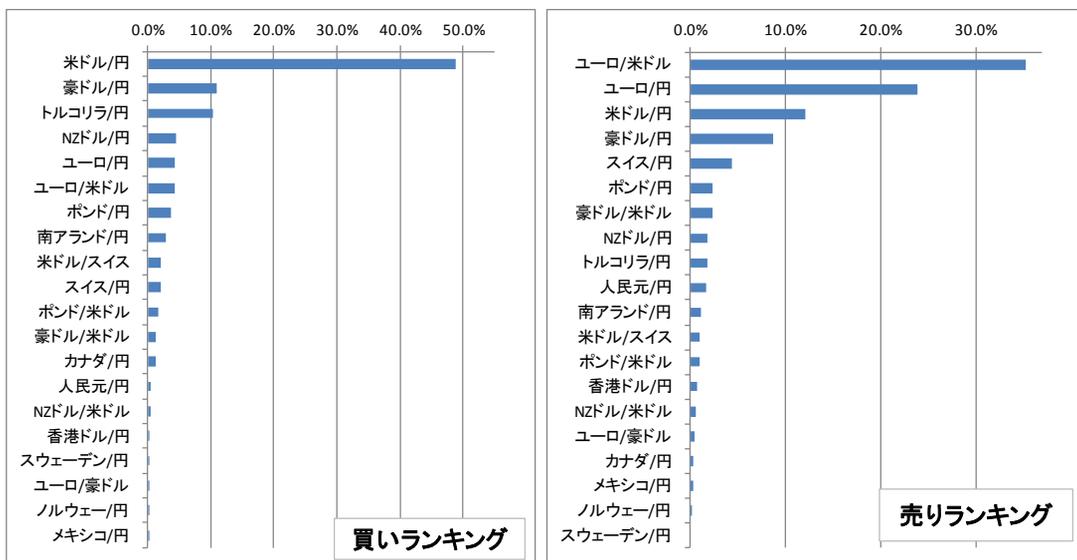


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

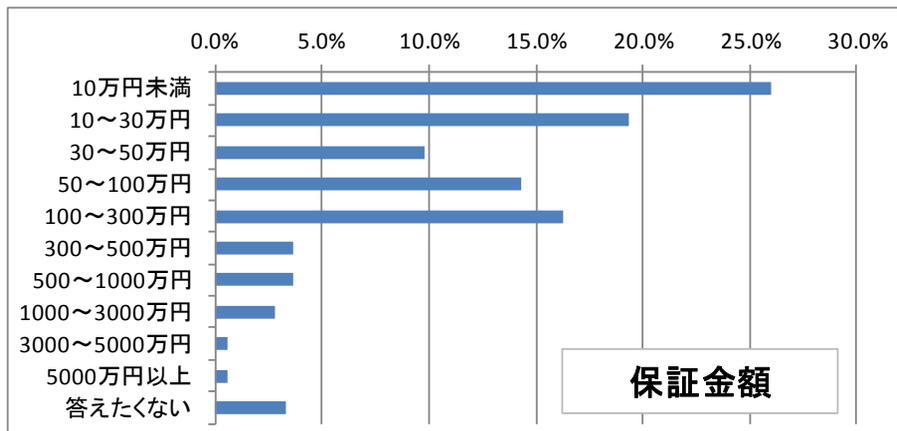
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、米ドル/円が48.7%と他を圧倒。以下、2位豪ドル/円(11.0%)、3位トルコリラ/円(10.4%)、4位NZドル/円(4.6%)、となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ/米ドル(35.2%)、2位ユーロ/円(23.9%)、3位米ドル/円(12.1%)、4位豪ドル/円(8.7%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が28カ月連続で1位となり、最長記録の更新が続いている。2位以下の豪ドル/円、トルコリラ/円、NZドル/円といった高金利通貨のクロス円に影さえ踏ませない独走状態であり、人気の一極集中も続いている。一方で、「売り」で注目の通貨については前回に続き、ユーロ/米ドルとユーロ/円のワン・ツーフィニッシュとなっており、ユーロ売り意欲の強さが窺える。また、「買い」で注目の1位が米ドル/円であり、かつ「売り」で注目の1位がユーロ/米ドルである事は、ドルの先高期待が強い事を物語っており、クロス円の人気がいまひとつである点からも円の下落期待がそれほど強くない事が分かる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

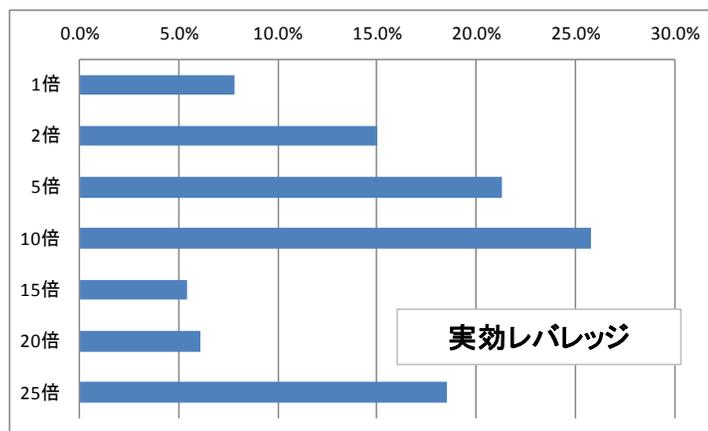
問6: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が26.0%と最も多く、以下「10～30万円(19.3%)」、「100～300万円(16.2%)」、「50～100万円(14.3%)」、「30～50万円(9.8%)」と続いた。順位に変動はなく、回答割合にも大きな変化は見られなかった。ただ、「300万円以上」とした合算割合は11.0%と、前回の11.7%からやや低下した。スイス中銀が無制限介入を放棄した事によりスイスフランが瞬間的に急騰した「スイス・ショック」では、多額の損失を蒙った投資家もいた模様だが、そうした教訓から保証金を積み増そうとする動きは窺えなかった。



問7: 現在の[実効レバレッジ]で最も近いものを選択ください(ひとつだけ)

「現在の[実効レバレッジ]」について尋ねたところ、「10倍」と答えた割合が25.8%と最も多く、「5倍」が21.3%と続いた。以下「25倍」が18.5%、「2倍」が15.0%、「20倍」が6.1%となった。10倍以下の合算割合が7割前後を占める傾向(今回は69.9%)に変化は見えられず、今回の調査に回答を寄せた個人投資家の平均実効レバレッジも前回と同じ10.7倍であった。FX投資家の実効レバレッジは、相場見通しや相場展開といった要因には左右されにくいようであり、平均実効レバレッジは10倍前後での推移が続いている。

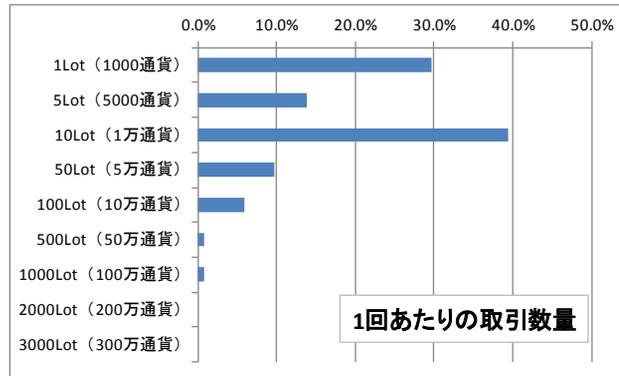


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

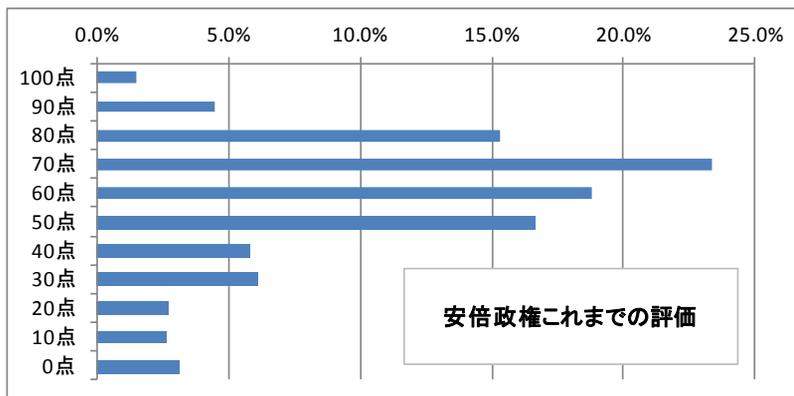
**問8: 一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)**

「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「10Lot (1万通貨)」と答えた割合が39.4%と最も多く、以下「1Lot(1000通貨)」が29.6%、「5Lot(5000通貨)」が13.9%、「50Lot(5万通貨)」が9.7%、「100Lot(10万通貨)」が5.9%と続いた。今回も、10Lot(1万通貨)以下の合算割合が82.9%に上っており、比較的小さな数量での取引が多数を占めている事がわかる。店頭FX市場は1月に過去最大の売買高(約660兆円)を記録するなど活況を呈しているが、一部の大口投資家による売買だけでなく、こうした小口取引の積み重なりも寄与していると考えられる。



**問9: 安倍政権が発足以降、これまでの経済政策を評価するならば、何点でしょうか(ひとつだけ)また、評価のポイントについて、コメント欄にお書きください。**

今月の特別質問項目として「安倍政権が発足以降、これまでの経済政策を評価するならば、何点でしょうか(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「70点」を付けた割合が23.4%と最も高く、以下「60点(18.8%)」、「50点(16.6%)」、「80点(15.3%)」と続いた。平均点は58.5点であり、1年前に同じ調査を行った際の60.5点から小幅に低下したが、概ね「及第点」と言って良いだろう。また、評価のポイントについての回答(自由記述)には「株高・円安の流れを作り出したから」との声が多かった。ただし、その一方で「格差を拡大させたため」との声や「物価だけ上がって賃金が上昇しないから」などとする辛口の評価もあった。なお、こうした辛口評価は多数意見ではないにせよ決して少数ではなかった。安倍政権の評価に30点以下という「赤点」を付けた割合が14.4%にも上った事にも、そうした点が表れている。

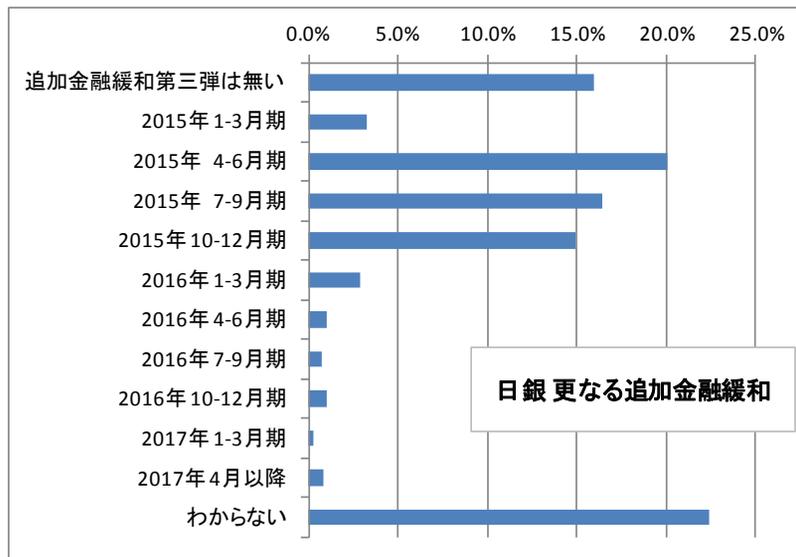


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 問10: 日銀による更なる追加金融緩和の実施時期は？

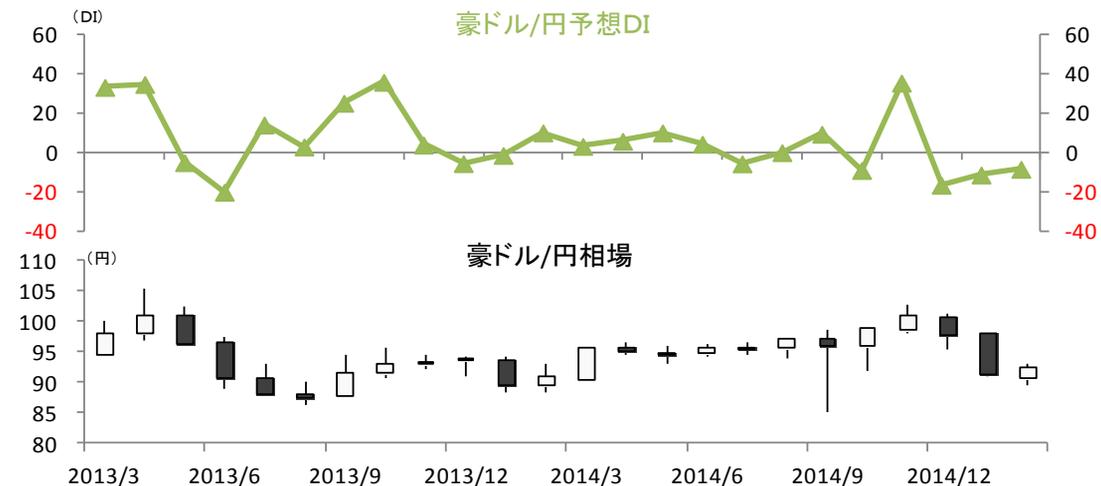
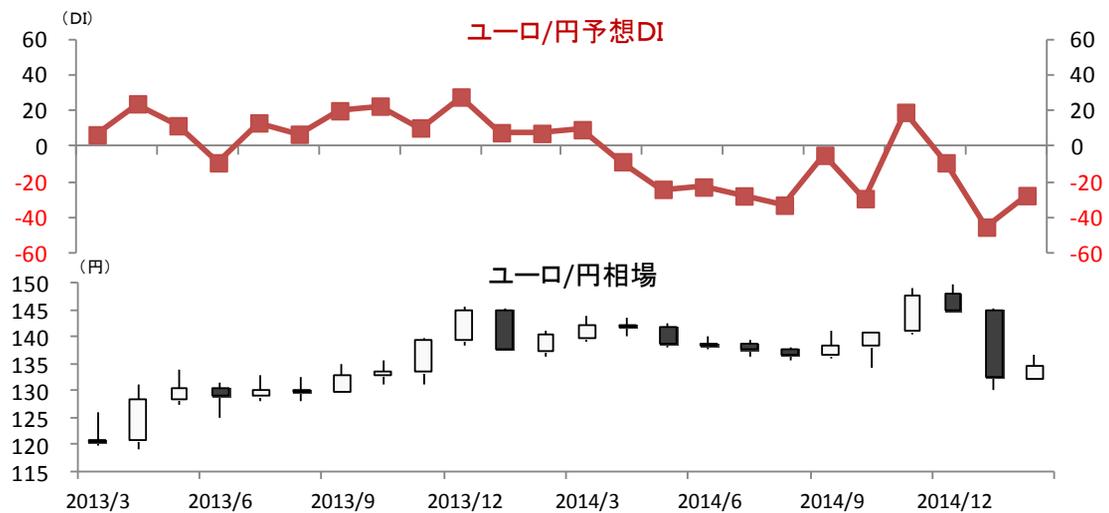
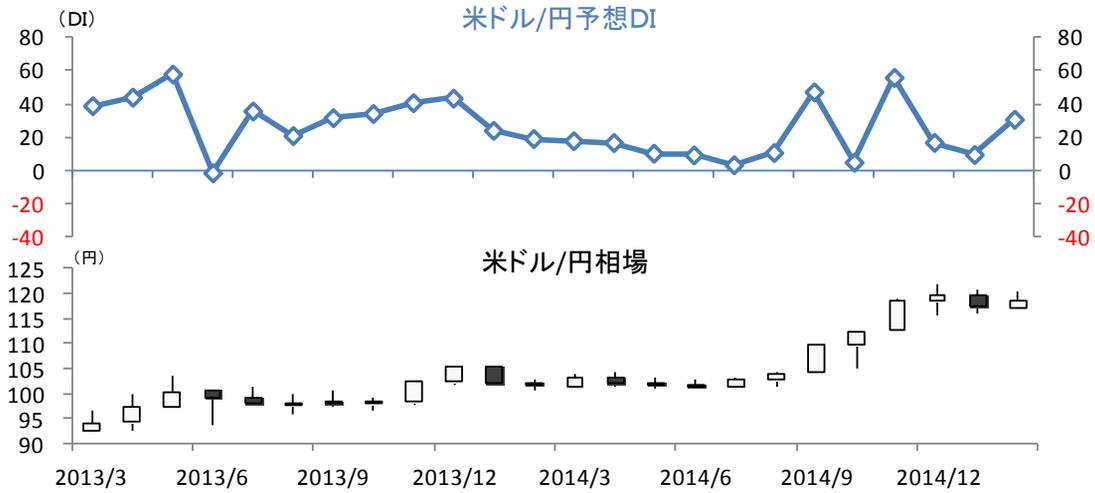
今月のもうひとつの特別質問項目として「日銀による更なる追加金融緩和の実施時期は？」と尋ねたところ、「わからない」が22.4%と最も多かった。「追加緩和第三弾は無い」が15.9%に上った点を合わせて考えると、FX投資家の間に強い緩和期待があるとは言い難い結果だろう。また、追加緩和があるとすれば、「2015年4-6月期」を見込む向きがトップ(20.1%)、次いで「2015年7-9月期(16.5%)」、「2015年10-12月期(15.0%)」と、年内に予想が集中している点が特徴的だ。なお、日銀は2014年10月に追加緩和を実施したが、1年前の調査においてその時期を的中させた向きは7.6%しかいなかった。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第69回目となりました。調査開始から5年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円			
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI	
2013年	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4	
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9	
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0	
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1	
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2	
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0	
	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3	
	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0	
	11月	53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0	
	12月	59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5	
	2014年	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3
		2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2
3月		41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3	
4月		41.4	24.6	16.8	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9	
5月		33.9	23.5	10.4	19.7	44.0	-24.3	34.2	24.0	10.2	
6月		31.1	21.7	9.4	20.1	43.1	-23.0	30.4	26.0	4.4	
7月		27.9	24.4	3.5	17.8	45.8	-28.0	26.7	32.3	-5.6	
8月		32.6	21.8	10.8	14.7	47.9	-33.2	27.8	27.7	0.1	
9月		64.8	17.6	47.2	28.0	33.2	-5.2	36.0	26.5	9.5	
10月		39.4	34.4	5.0	18.3	47.8	-29.5	27.1	36.1	-9.0	
11月		70.0	14.2	55.8	43.0	24.1	18.9	54.0	18.4	35.6	
12月		48.9	32.0	16.9	28.8	38.2	-9.4	26.9	43.4	-16.5	
2015年	1月	39.3	29.7	9.6	15.1	60.6	-45.5	26.2	37.5	-11.3	
	2月	46.8	16.1	30.7	19.7	47.5	-27.8	26.4	34.8	-8.4	

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com